

商工会議所L O B O（早期景気観測）

—平成13年12月調査結果—

（平成13年12月27日）

○調査期間：平成13年12月13日～19日

○調査対象：全国の396商工会議所が2622業種組合等にヒアリング
（内訳）建設業 387 製造業 635 卸売業 237
小売業 753 サービス業 610

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（DI値を集計）
及び、業界として当面する問題等

※ DI値について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844/7836
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成13年12月調査結果のポイント】

全産業業況DI値5.5ポイントの大幅悪化。資金繰り悪化懸念強まる

- 12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、全業種でマイナス幅が前月水準より拡大したことから、前月水準（▲57.3）よりマイナス幅が5.5ポイント拡大して▲62.8となった。この5.5ポイントは、平成9年12月（7.3ポイント拡大）以来4年ぶりの大幅な拡大。また、マイナス60ポイント台は、平成10年12月以来3年ぶり。昨年10月以来、業況の悪化傾向が続き、調査を開始した平成元年4月以来の最低値（平成10年8月、▲66.9）に近づきつつあるなど、地域経済や中小企業の足元の景況感は、一層厳しい状況に陥っている。また、今月は、地域金融機関の経営破綻や年末の厳しい資金繰り状況等を受けて、資金繰り悪化に対する懸念が強まっている。

建設業では、「受注単価の低下で採算は悪化」（建築工事）といった声のほか、「今後も厳しい状況が続き、先行き不安」（一般工事）、「資金繰りが一段と悪化し、倒産も発生」（一般工事）等の指摘が多く寄せられている。

製造業では、業況DI値が調査開始以来の最低値（平成10年9月、▲69.3）を更新するなど悪化傾向が強まっており、引き続き、発注減、受注単価低下、外国製品との競争激化、取引先の海外調達加速等の厳しい声が多く寄せられている。具体的には、「特に中国価格との受注価格競争激化」（電気機械器具製造）、「どこが底か、いつ底になるのか、が見えてこない」（金属加工機械製造）、「ほとんどの会社で人員削減を実施」（金属素形材製品製造）、「大幅なコストダウン要請の対応に苦慮」（自動車・同附属品製造）、「自動車生産コスト削減にともなう単価引下げ」（金属加工機械製造）、「9月11日の米国テロ以来、新造船の引き合いが途絶えた」（船舶製造・修理）、「先行き暗い。資金繰りに不安。好転の材料がない」（建設・建築用金属製品製造）といった声が寄せられている。

卸売業では、「ホームセンターでの肥料安売りの影響」（総合卸）、「野菜・果実は単価安だが消費力が弱く、業況は最悪」（農畜産水産物卸）、「中国製品の輸入増加と国内販売不振により、大変厳しい」（衣服・日用品卸）といった声が寄せられている。

小売業では、海外旅行の手控えの影響から「ブランド商品やおせち料理の販売が好調」（百貨店）、「観光客増により今後売上が期待できそう」（商店街）といった声の一部あるものの、「客単価の減少続く」（百貨店）、「歳末商戦も、中小企業のボーナスカット等により消費意欲低下」（商店街）、「気温が前年より高く、冬物衣料の売上不振」（百貨店）、「前月の早期受注の反動で歳暮ギフトが不振」（百貨店）、「狂牛病の影響で牛肉等の売上が低迷」（各種商品小売）、「資金繰り悪化。金融不安大きい」（商店街）といった声が寄せられている。

サービス業では、「テロ事件の影響もあって宿泊部門は堅調」（旅館）との声も一部にあるが、「忘年会が例年より人数、単価とも減少」（食堂・レストラン）、「来店サイクルが長くなってきている」（美容）、「狂牛病問題で、焼肉、レストラン、居酒屋は売上が減少」（食堂・レストラン）、「テロ事件以降、観光客の落込み等による影響を受けている」（旅館）などの声が多く寄せられている。

売上面では、前月水準に比べて10.4ポイントものマイナス幅大幅拡大となったサービス業のほか、製造業および小売業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が4.5ポイント拡大して▲53.9となった。採算面では、全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が4.4ポイント拡大して▲55.2となった。

- 向こう3ヵ月(1月~3月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲56.6と、前月時点での先行き見通し(▲50.4)をさらに下回ったほか、昨年同時期の先行き見通し(▲37.9)に比べても極めて厳しい見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、年末年始の消費動向や、年明け後の補正予算や来年度予算による公共工事の受注動向、地域金融機関の経営問題、狂牛病問題、などについての関心が高い。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

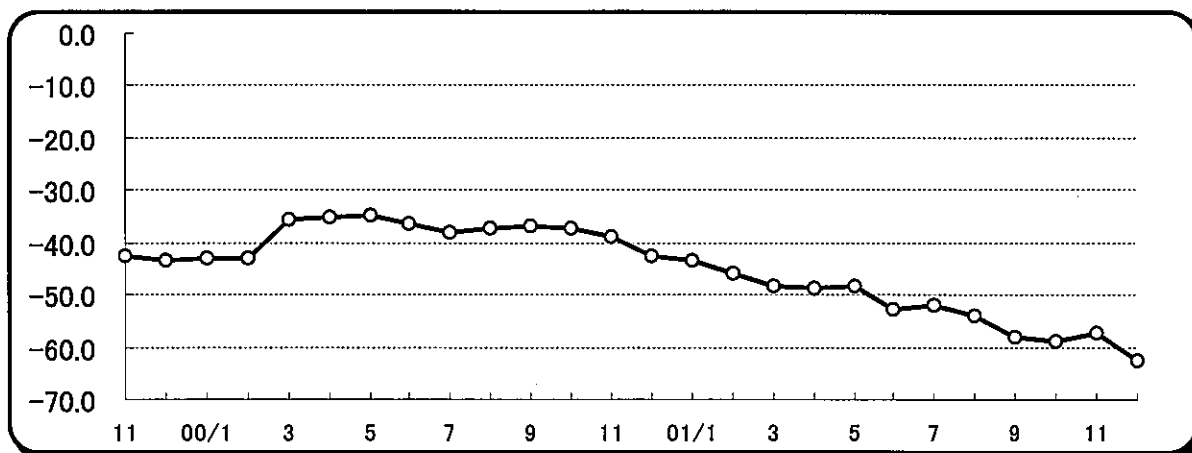
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、全業種でマイナス幅が前月水準より拡大したことから、前月水準（▲57.3）よりマイナス幅が5.5ポイント拡大して▲62.8となった。昨年10月以来、業況の悪化傾向が続き、調査を開始した平成元年4月以来の最低値（平成10年8月、▲66.9）に近づきつつあるなど、地域経済や中小企業の足元の景況感は、一層厳しい状況に陥っている。
- 向こう3ヵ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲56.6と、前月時点での先行き見通し（▲50.4）をさらに下回ったほか、昨年同時期の先行き見通し（▲37.9）に比べても極めて厳しい見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	13年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	▲52.0	▲54.2	▲58.2	▲59.0	▲57.3	▲62.8	▲56.6 (▲37.9)
建設	▲60.6	▲60.6	▲64.8	▲69.5	▲66.3	▲70.7	▲67.7 (▲50.9)
製造	▲59.4	▲57.8	▲61.5	▲62.6	▲64.9	▲69.9	▲61.1 (▲31.0)
卸売	▲57.1	▲63.2	▲62.6	▲70.6	▲66.5	▲70.2	▲58.9 (▲37.2)
小売	▲44.2	▲51.1	▲53.0	▲53.0	▲50.1	▲56.2	▲51.7 (▲39.2)
サービス	▲45.2	▲46.3	▲54.5	▲50.5	▲47.3	▲54.2	▲48.8 (▲35.6)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年12月の先行き見通しDI<以下同じ>

≪業況DI（全産業・前年同月比）の推移≫



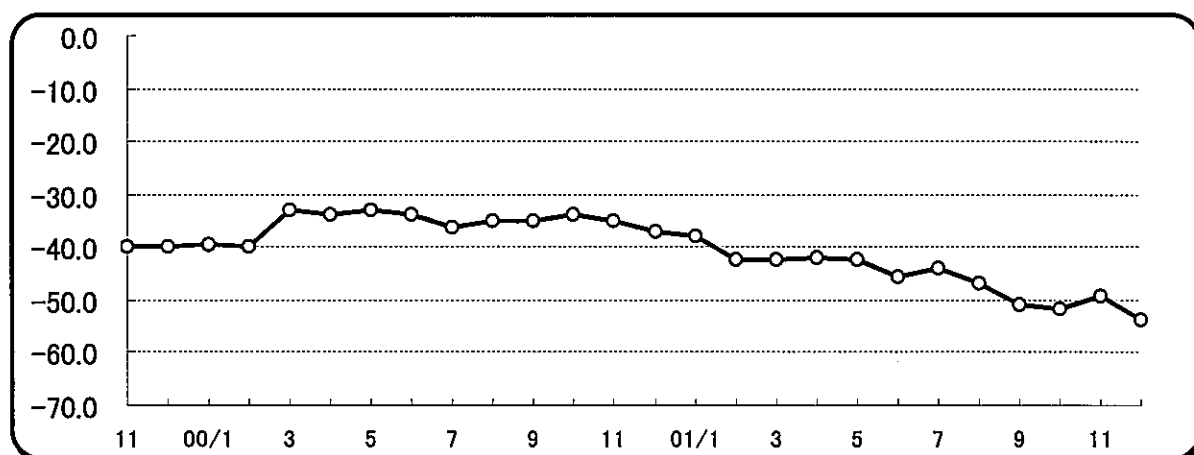
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、前月水準に比べて10.4ポイントものマイナス幅大幅拡大となったサービス業のほか、製造業および小売業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が4.5ポイント拡大して▲53.9となった。
- 向こう3ヵ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲50.8と、昨年同時期の先行き見通し（▲33.7）に比べて非常に厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	▲44.1	▲47.0	▲50.8	▲51.8	▲49.4	▲53.9	▲50.8 (▲33.7)
建設	▲54.6	▲53.8	▲60.1	▲60.7	▲60.4	▲60.0	▲61.7 (▲46.5)
製造	▲49.7	▲50.0	▲50.9	▲53.9	▲54.6	▲60.0	▲53.7 (▲25.2)
卸売	▲56.5	▲56.1	▲55.1	▲61.4	▲59.4	▲57.0	▲57.0 (▲40.4)
小売	▲34.5	▲45.6	▲45.9	▲45.9	▲42.9	▲46.9	▲46.0 (▲34.7)
サービス	▲37.4	▲37.3	▲48.4	▲46.5	▲39.7	▲50.1	▲43.2 (▲30.8)

≪売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移≫



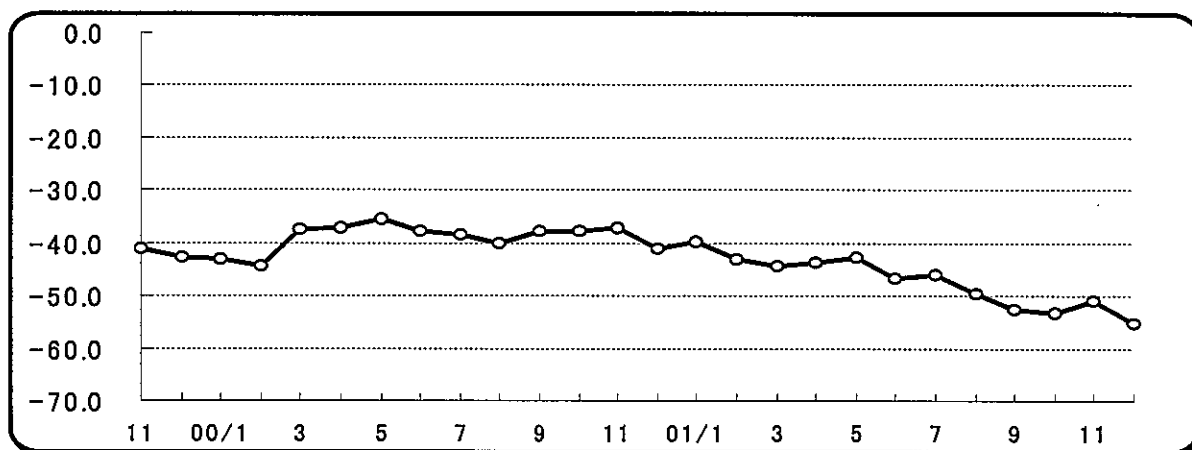
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が4.4ポイント拡大して▲55.2となった。
- 向こう3ヵ月(1月~3月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲51.0と、昨年同時期の先行き見通し(▲33.7)に比べて厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	▲46.0	▲49.5	▲52.6	▲53.1	▲50.8	▲55.2	▲51.0 (▲33.7)
建設	▲58.9	▲59.9	▲63.2	▲64.2	▲63.4	▲64.4	▲62.1 (▲46.5)
製造	▲55.0	▲56.1	▲59.4	▲59.5	▲59.6	▲63.5	▲56.7 (▲26.9)
卸売	▲52.2	▲56.1	▲52.4	▲58.2	▲51.6	▲57.6	▲53.6 (▲36.5)
小売	▲34.1	▲43.7	▲43.0	▲43.5	▲40.8	▲45.4	▲45.0 (▲35.3)
サービス	▲39.5	▲39.8	▲49.6	▲47.5	▲44.0	▲50.1	▲42.6 (▲29.5)

≪採算D I (全産業・前年同月比) の推移≫



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

	13年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	▲ 32.6	▲ 32.5	▲ 37.3	▲ 37.1	▲ 38.6	▲ 42.5	▲ 40.2 (▲ 24.9)
建設	▲ 40.9	▲ 44.1	▲ 42.8	▲ 43.2	▲ 47.7	▲ 53.2	▲ 49.8 (▲ 31.5)
製造	▲ 37.5	▲ 35.4	▲ 41.9	▲ 43.4	▲ 44.8	▲ 51.8	▲ 48.5 (▲ 23.5)
卸売	▲ 28.5	▲ 32.5	▲ 37.5	▲ 34.4	▲ 37.4	▲ 35.7	▲ 34.1 (▲ 27.4)
小売	▲ 27.3	▲ 26.3	▲ 30.2	▲ 28.9	▲ 29.1	▲ 34.3	▲ 33.6 (▲ 23.4)
サービス	▲ 27.8	▲ 27.0	▲ 35.1	▲ 34.3	▲ 35.1	▲ 34.1	▲ 34.1 (▲ 23.0)

$$DI = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比DI】建設業、製造業および小売業で悪化超感が強まる。

【先行き見通しDI】全業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	13年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	2.0	3.7	4.2	2.1	4.9	5.1	1.4 (▲ 1.6)
建設	3.3	7.0	2.2	5.0	6.3	4.1	0.7 (▲ 1.1)
製造	▲ 4.0	▲ 2.7	▲ 0.5	▲ 4.8	0.7	1.4	▲ 2.1 (▲ 7.8)
卸売	6.8	8.4	11.0	9.9	12.3	18.7	10.7 (5.1)
小売	9.7	12.9	10.0	7.7	7.9	12.0	7.2 (5.8)
サービス	▲ 3.9	▲ 4.8	0.8	▲ 2.0	1.6	▲ 4.1	▲ 5.4 (▲ 7.2)

$$DI = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比DI】製造業、卸売業および小売業で下落超感が強まり、全産業合計のDI値は前月の調査開始以来の最高値を更新。

【先行き見通しDI】全業種で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	▲ 15.6	▲ 14.4	▲ 15.7	▲ 17.2	▲ 16.8	▲ 19.2	▲ 19.3 (▲ 11.5)
建設	▲ 33.6	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 31.2	▲ 31.5	▲ 34.6	▲ 35.9 (▲ 18.1)
製造	▲ 22.8	▲ 21.9	▲ 22.9	▲ 25.6	▲ 26.2	▲ 30.7	▲ 32.4 (▲ 16.1)
卸売	▲ 19.3	▲ 18.1	▲ 16.3	▲ 20.3	▲ 18.7	▲ 19.2	▲ 14.0 (▲ 12.9)
小売	▲ 5.2	▲ 4.0	▲ 5.8	▲ 8.4	▲ 4.5	▲ 7.2	▲ 6.9 (▲ 9.0)
サービス	▲ 6.3	▲ 6.3	▲ 10.2	▲ 7.3	▲ 9.9	▲ 9.5	▲ 9.4 (▲ 4.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】 サービス業を除く4業種で過剰超感が強まる。

【先行き見通しD I】 小売業を除く4業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年12月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

引き続き、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。建設業からは、「今後も厳しい状況が続き、先行き不安」（安城・一般工事）、「今後の公共工事についてはあまり期待できない」（札幌・一般工事）、「このままでは1～4月の仕事量は激減するのではないか」（上越・電気工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「どこが底か、いつ底になるのか、が見えてこない」（松任・金属加工機械製造）、「ほとんどの会社で人員削減を実施」（下館・金属素形材製品製造）、「9月11日の米国テロ以来、新造船の引き合いが途絶えた」（尾道・船舶製造・修理）、「先行き暗い。資金繰りに不安。好転の材料がない」（延岡・建設・建築用金属製品製造）など、厳しい声が多く寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「デフレの進行と閉塞状況が強い」（一宮・繊維品卸）、「中国製品の輸入増加と国内販売不振により、大変厳しい」（榎原・衣服・日用品卸）、「景気は右肩下がりの方。政府の方針を抜本的に変えるしかない」（小野・総合卸）、「小売業界はさらに価格競争が激化」（上越・百貨店）、「消費者の買い控えは一向に止まず、商店街に歳末商戦の活気は見られない」（館山・商店街）、「年明けも特に期待感はなく、不安である」（所沢・百貨店）、「来年に向かって明るい商材はなし」（小牧・各種商品小売）、「資金繰りも含め、今後に見通し立たず」（釧路・食堂・レストラン）、「狂牛病問題で、焼肉、レストラン、居酒屋は売上が減少」（伊万里・食堂・レストラン）、「テロ事件以降、観光客の落込み等による影響を受けている」（那覇・旅館）などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

今月についても、長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが多く寄せられた。「資金繰りが一段と悪化し、企業倒産も発生している」（一宮・一般工事）、「業界および業界関係者の倒産、廃業が続出し、業界内に不安が拡大している」（茨木・印刷関連業）、「団地内企業が取引先倒産により業績悪化」（盛岡・総合卸）、「小さな顧客に廃業するところが出ている」（廿日市・建築材料卸）、「同業者の倒産により、売上・業況とも一時的に好転したが、総体的な回復感はなく、むしろ業界内のパイは縮小傾向」（弘前・百貨店）、「メーカーや問屋の倒産・廃業により、商品供給に影響が出そう」（松任・商店街）などの指摘が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年10月	先行き不透明感	狂牛病問題	倒産・廃業
13年11月	先行き不透明感	冬物商品	
13年12月	先行き不透明感	倒産・廃業	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	売上D1は2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したが、業況・採算D1は前月水準に比べてマイナス幅拡大となっている。業況D1の▲70超えは、平成10年8月以来3年4ヵ月ぶり。また、資金繰りD1において大幅なマイナス幅拡大が見られる。「受注単価の低下で採算は悪化」(建築工事)といった声のほか、「今後も厳しい状況が続く、先行き不安」(一般工事)、「資金繰りが一段と悪化し、倒産も発生」(一般工事)等の指摘が多く寄せられている。
製 造	業況D1は9ヵ月連続してマイナス幅が拡大し、一旦縮小ののち、再び4ヵ月連続で拡大し、調査開始以来の最低値(平成10年9月、▲69.3)を更新した。また、売上D1は7ヵ月連続、採算D1は14ヵ月連続のマイナス幅拡大となっている。さらに、資金繰りD1において大幅なマイナス幅拡大が見られる。引き続き、発注減、受注単価低下、外国製品との競争激化、取引先の海外調達加速等の厳しい声が多く寄せられている。具体的には、「特に中国価格との受注価格競争激化」(電気機械器具製造)、「どこが底か、いつ底になるのか、が見えてこない」(金属加工機械製造)、「ほとんどの会社で人員削減を実施」(金属素形材製品製造)、「大幅なコストダウン要請の対応に苦慮」(自動車・同附属品製造)、「自動車生産コスト削減にともなう単価引下げ」(金属加工機械製造)、「9月11日の米国テロ以来、新造船の引き合いが途絶えた」(船舶製造・修理)、「先行き暗い。資金繰りに不安。好転の材料がない」(建設・建築用金属製品製造)といった声が寄せられている。
卸 売	売上D1は2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したが、業況・採算D1は前月水準に比べてマイナス幅拡大となっている。「ホームセンターでの肥料安売りの影響」(総合卸)、「野菜・果実は単価安だが消費力が弱く、業況は最悪」(農畜産水産物卸)、「中国製品の輸入増加と国内販売不振により、大変厳しい」(衣服・日用品卸)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D1とも、前月のマイナス幅縮小から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。また、資金繰りD1において大幅なマイナス幅拡大が見られる。海外旅行の手控えの影響から「ブランド商品やおせち料理の販売が好調」(百貨店)、「観光客増により今後売上が期待できそう」(商店街)といった声が一部あるものの、「客単価の減少続く」(百貨店)、「歳末商戦も、中小企業のボーナスカット等により消費意欲低下」(商店街)、「気温が前年より高く、冬物衣料の売上不振」(百貨店)、「前月の早期受注の反動で歳暮ギフトが不振」(百貨店)、「狂牛病の影響で牛肉等の売上が低迷」(各種商品小売)、「資金繰り悪化。金融不安大きい」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D1とも、前月までの2ヵ月連続マイナス幅縮小から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「テロ事件の影響もあって宿泊部門は堅調」(旅館)との声も一部にあるが、「忘年会が例年より人数、単価とも減少」(食堂・レストラン)、「来店サイクルが長くなってきている」(美容)、「狂牛病問題で、焼肉、レストラン、居酒屋は売上が減少」(食堂・レストラン)、「テロ事件以降、観光客の落込み等による影響を受けている」(旅館)などの声が多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

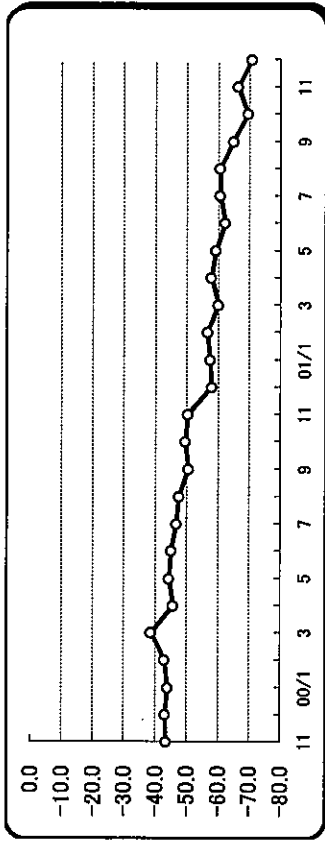
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、昨年12月以来1年ぶりに、全ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（1月～3月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

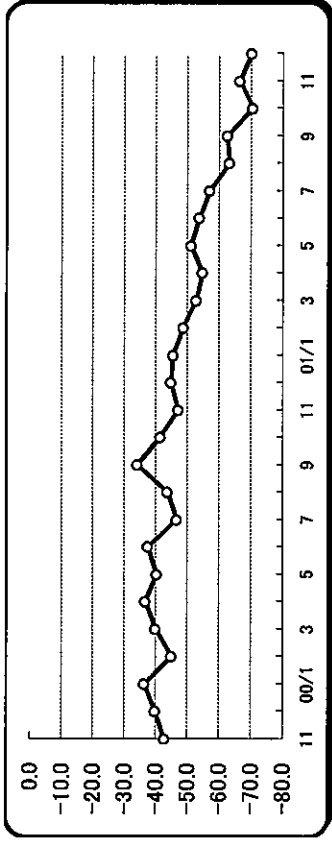
	13年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全 国	▲ 52.0	▲ 54.2	▲ 58.2	▲ 59.0	▲ 57.3	▲ 62.8	▲ 56.6 (▲ 37.9)
北 海 道	▲ 44.4	▲ 40.3	▲ 44.3	▲ 39.7	▲ 42.9	▲ 44.3	▲ 50.0 (▲ 39.3)
東 北	▲ 53.7	▲ 58.0	▲ 60.3	▲ 59.6	▲ 63.4	▲ 66.0	▲ 64.8 (▲ 40.1)
北陸信越	▲ 58.0	▲ 52.2	▲ 57.1	▲ 62.0	▲ 50.6	▲ 61.5	▲ 61.0 (▲ 45.7)
関 東	▲ 48.4	▲ 50.6	▲ 55.8	▲ 54.8	▲ 52.3	▲ 59.5	▲ 49.8 (▲ 29.3)
東 海	▲ 46.3	▲ 57.4	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 55.3	▲ 67.8	▲ 59.6 (▲ 35.2)
近 畿	▲ 56.8	▲ 64.1	▲ 61.8	▲ 65.8	▲ 68.7	▲ 68.8	▲ 59.5 (▲ 41.8)
中 国	▲ 54.6	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 64.1	▲ 62.7	▲ 68.2	▲ 66.9 (▲ 40.9)
四 国	▲ 63.7	▲ 57.9	▲ 69.2	▲ 65.2	▲ 63.5	▲ 67.9	▲ 49.1 (▲ 45.0)
九 州	▲ 48.2	▲ 49.7	▲ 56.1	▲ 58.6	▲ 58.0	▲ 62.4	▲ 57.1 (▲ 37.9)

業況D I (前年同月比) の推移 (全国)

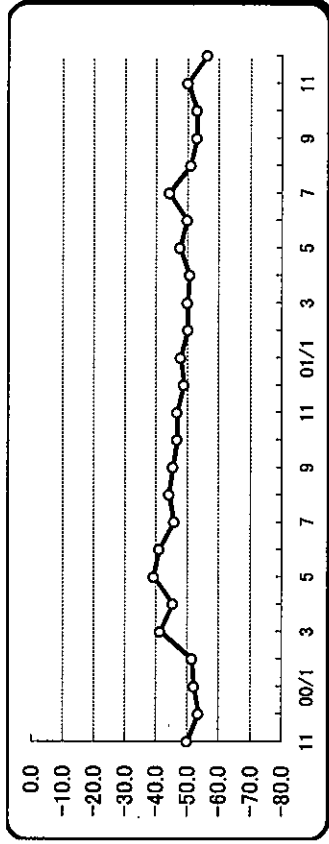
建設業



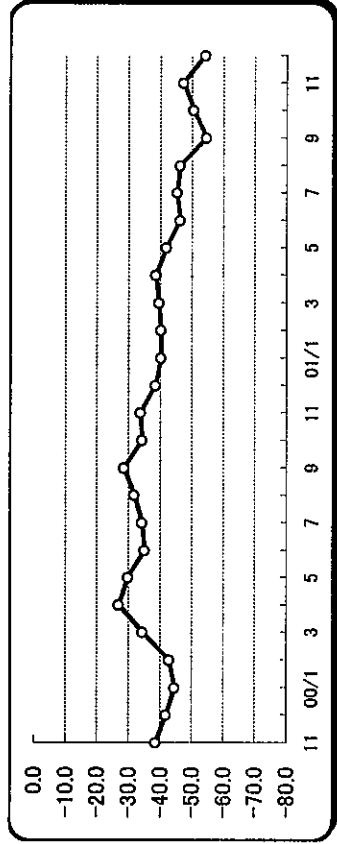
卸売業



小売業



サービス業



製造業

